

明治国家形成のグランドデザイナー

井上 毅（いのうえ こわし）

井上毅は明治政府のブレーンとして明治初期の重要政策立案に中心的役割を果たした、明治を代表する官僚・政治家です。

毅は天保 14 年（1843 年）に熊本藩家老米田家に仕える飯田家に生まれました。幼名は多久馬といい、のちに井上家の養子となり毅と改めました。毅は幼いころから勉学に励み、神童として誉れ高く、米田家の家塾である必由堂に学びました。毅は優秀な成績を修め、主君であった米田（長岡）監物に認められ、藩校時習館の居寮生となりました。さらに、藩命により長崎や江戸に遊学しフランス語などを修め、維新後は現在の東京大学につながる大学南校で学びました。

明治 4 年（1871 年）には司法省に出仕し、明治政府の役人となります。同 5 年に司法卿江藤新平に随って渡欧し、翌年帰国しました。明治 7 年（1874 年）には台湾出兵後の清国との交渉において内務卿大久保利通の随員として北京にも赴きました。毅は伊藤博文らの命で現在の日本にもつながる数々の重要な政策立案にかかわります。特に有名なものは大日本帝国憲法の起草です。君主に強い権利を与えていたプロイセン（ドイツ）の憲法を参考に数年の歳月をかけて草案が作成された大日本帝国憲法は、明治 22 年（1889 年）に欽定憲法として発布されるに至りました。この憲法は天皇の広い権限が定められたほか、法律の範囲内で臣民の権利義務が認められ、海外でも高く評されました。

もう一つ大きな功績として教育勅語の起草があります。当時法制局長官だった毅と明治天皇の侍講で同じく熊本出身の元田永孚が中心となり、教育の基本方針が述べられた教育勅語が起草され、明治 23 年（1890 年）に発布されました。この内容は、人々の守るべき多くの道徳や忠君愛国の思想に基づくものでした。

明治 26 年（1893 年）に伊藤博文内閣の文部大臣に任じられ、熊本出身者で初めての大臣となりました。しかし、結核のため明治 27 年に辞任し、療養に努めましたが、明治 28 年に亡くなりました。亡くなるひと月前には長年の勲功により子爵の爵位を授与されました。

昭和 35 年（1960 年）にはその功績をたたえ熊本県近代文化功労者に選出されました。

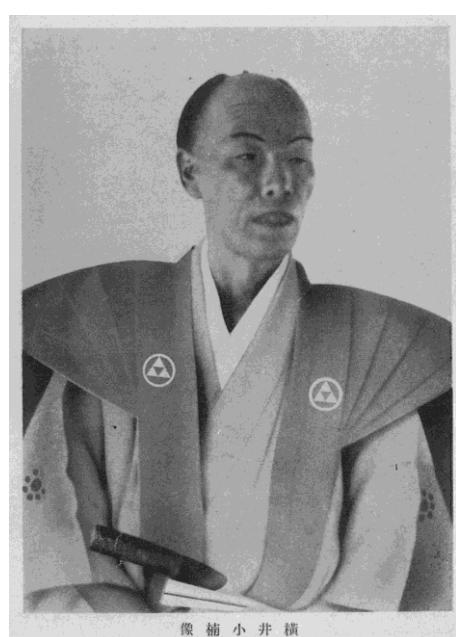
熊本を代表する偉人の問答

沼山對話（しょうざんたいわ）

元治元年（1864 年）の秋晴れの日、井上毅は友人と二人で沼山津四時軒に閑居中の横井小楠を訪ね、数々の質問をしました。当時の毅は若干 22 歳の時習館の居寮生で、神童として知れ渡っていたものの、まだ何も成していない若者にすぎませんでした。一方の小楠は士道忘却事件によって閑居中とはいえ、日本中に名が知れ渡っていた高名な思想家でした。この時の対話記録を井上毅は『沼山對話』として残しました。この記録は暗殺されたこともあり、自らの思想について体系的著述を書かなかった小楠の、晩年の思想を垣間見ることができる重要な資料となっています。

問答は今昔の学問の違いについてから始まり、学問の目的と役割、『大学』（儒教の教書の一つ）などの教書、耶蘇教（キリスト教）について、耶蘇教と仏教の比較、仏教各宗派について、聖人の道との一致点、西洋が強大な国々となった理由、西洋人の道德、ヨーロッパ諸国への評価、開国論について、世界と日本の実情など様々な話題にわたりました。

猪飼隆明氏はこの対話記録にみられる小楠の思想や識見において最も特徴的なものは「思」と述べています。（猪飼 2024『維新変革の奇才横井小楠』）



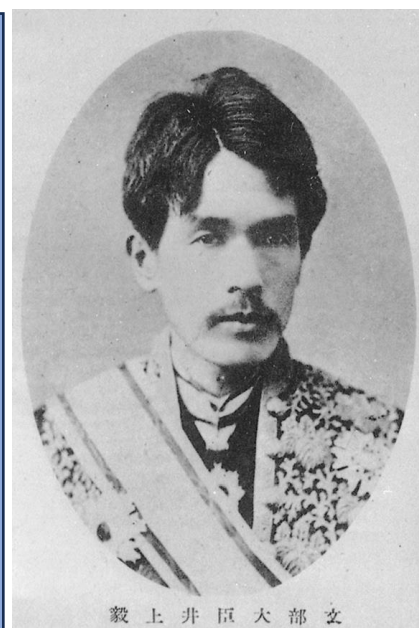
横井小楠肖像

古の学問は後世の学問とは違ひ候哉

既読 1
10:01

書経に堯の徳を称して文思安々と申したり。此の文思の字、学問の眼目にて古の学は皆思の一字に在りと知られ候。（以下略）

10:03



井上毅肖像

横井小楠肖像（国立国会図書館「近代日本人の肖像」）

井上毅肖像（国立国会図書館「近代日本人の肖像」）

井上毅の熊本ゆかりの地

